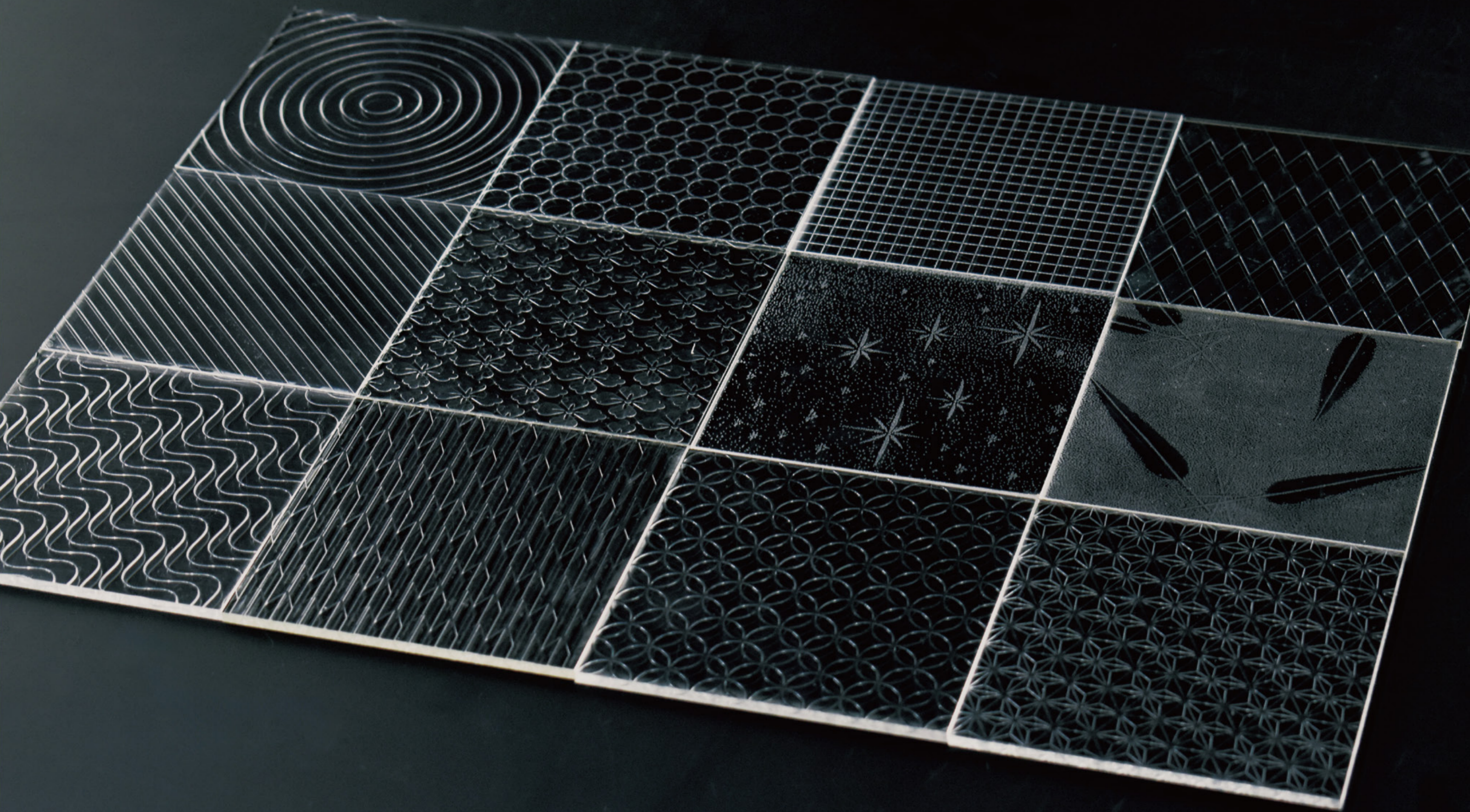


日本の文化と工芸を身近に

現在国内生産が難しい昭和型板ガラスをアクリル板で再現。

現代人の多様なライフスタイルに合わせた製品展開が望める素材へ。

日本の文化や工芸をデジタル技術で未来へつなぐ CMF デザイン提案。



■「昭和型板ガラス」とは

昭和時代に生産されていた表面に模様のような凹凸を持つ板ガラス。

「光を通しつつ視界を遮る」という特徴を持っており、

照明が十分に普及していなかった当時は重宝されていた。

最盛期にはデザイン性が人気を呼び 100 種類以上のパターンが製造されたが、

徐々に透明なガラスの需要が高まり、昭和型板ガラスは衰退していった。

現在では生産ラインの確保が難しく国内生産が出来ないため、

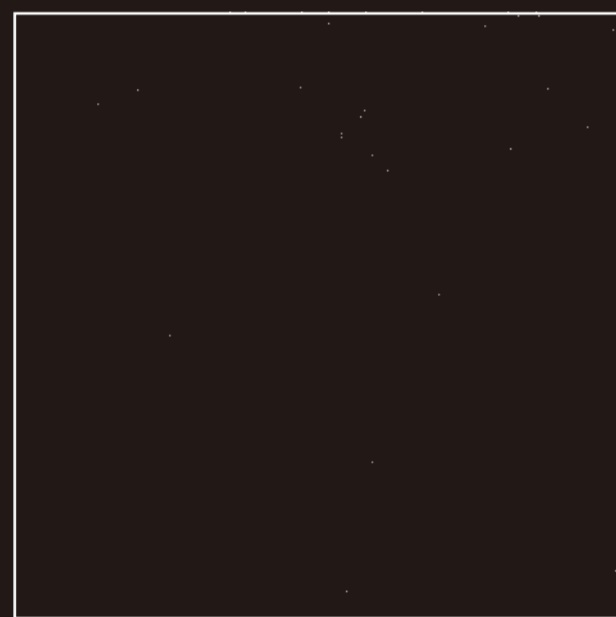
容易に手に入れることが出来ない。

「Renatus … 生まれ変わり再生する」

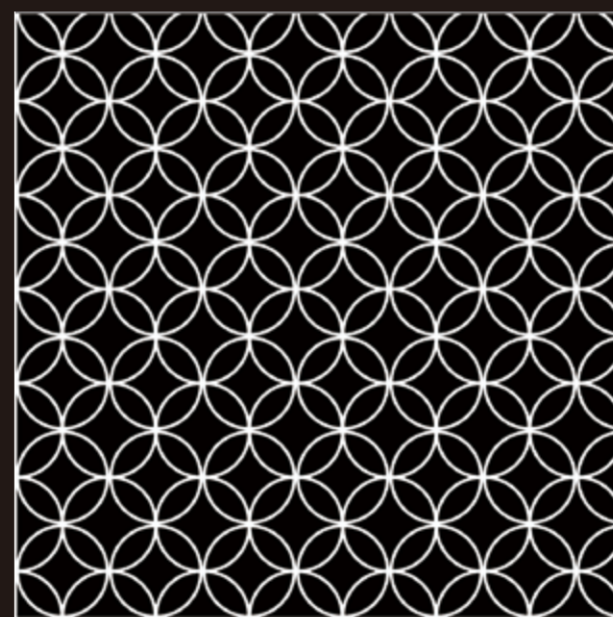
■ 特徴

- ・ アクリルパーテーションを再利用できる
UV印刷をすることで表面の傷や汚れが目立ちにくくなる
- ・ 様々な加工に対応
アクリルの高い加工性→ガラスでは不可能だった加工が可能
曲げ / 染め / レーザーカット
- ・ 安全性 / 利用性が高い
落として割れる心配がないため誰でも扱える

■ 展開



昭和型板ガラス



日本の伝統模様



幾何学模様

■ 活用例

旅館の受付

模様：伝統模様
製品例：灯籠

上品な和の演出に

リビング

模様：ささ
製品例：雑貨品

部屋のアクセントに

店

模様：雰囲気合うもの
製品例：照明

店舗の装飾
雰囲気づくりに